

県外派遣報告書

審判員名（報告者）	箱石 拓也（U18 南部）、堀口 拳（U18 西部）、村上 翔（U12）、土屋 友由（社会人）	
大会名	2025(令和7)年度 第79回 国民スポーツ大会 関東ブロック大会 バasketボール競技	
期 間	2025年 8月16日 ～ 17日	
会 場	OPEN HOUSE ARENA OTA、太田市運動公園市民体育館	
ス ケ ジ ュ ー ル		
期 日	内 容	場 所
8月 11日	審判会議、研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他
8月 16日	少年男女1回戦・準決勝、成年男女1回戦	(男子) OPEN HOUSE ARENA OTA (女子) 太田市運動公園市民体育館
8月 17日	少年男女決勝・出場決定戦、成年男女準決勝・決勝	
審判会議、研修会 講義内容		
<p>講師（指名審判員）：茂泉 圭治様、赤星 隆幸様、島袋 竹志様、中嶽 希美子様</p> <p>講義テーマ：「審判レベルを次にステップアップするためには」</p> <p>●茂泉 圭治様より</p> <p>【経験】1試合1試合どのように取り組んでいくか。目標や課題を設定し、一つでもクリアできるようにすること。</p> <p>【知識】試合後のコメントから。ゲームログから。メカニクスや判定、対応する姿、などを確認していく。審判としての姿やルールの適応の仕方などを蓄積させていくことで、次の試合で活かせるようになってくる。</p> <p>【実践】やってみる。毎回のゲームでチャレンジすること。スクラップ&ビルド。</p> <p>【振り返る】映像やコメントを活用し、振り返っていくことで、次のゲームでの課題や目標を設定する。</p> <p>繰り返していくことで、成長が感じられていくはずなので実践してほしい。</p> <p>今大会では、クルーの中で自分の意見を発信できるように取り組んでほしい。そして、オンザコートでは、必要な時に情報共有を絶やさず。3人で協力して進めることにつながっていくはず。</p> <p>●赤星 隆幸様より</p> <p>失敗したことを修正して、次に進めることが大切である。</p> <p>失敗に気付く→認める→試合中に修正する</p> <p>アドバイスをもらった時に感覚が同じであったり、気づいたりしていると修正が容易になる。</p> <p>しかし、感覚が違えば修正が難しくなってしまう。</p> <p>●島袋 竹志様より</p> <p>審判員として、様々なことを考えるようになった。→試合の価値、スカウティング、ゲームログから振り返り etc</p> <p>自身の審判に対する考え方がある漫画のコメントから吸収していき、今に至る。</p> <p>常日頃から、マインド設定を絶やさずに行っている。</p> <p>必要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メカニクス：知識があって、コート上で実践できるかどうか ・ゲームコントロール： <p>プレイコーリング、シンプルにできるかどうか（判定力）</p> <p>コミュニケーション、ポストカンファレンス etc</p>		

●中嶽 希美子様より

不安要素をゼロにして、試合に臨むことが大切である。

そのために、PGC も大切な要素の1つである。

自分の中でここまでできるという最低ラインをあげることで、スキルアップにつながっていく。

派遣者各自の担当試合報告

期 日	8月16日(土) 少年女子1回戦
対戦カード	千葉 vs 東京
ク ル ー	CC: 岸 由貴 氏(群馬) U1: 箱石 拓也(報告者) U2: 籠谷 琢磨 氏(群馬)
ミーティング内容	審判主任: 大坪 綾音 氏(千葉)

▶ゲーム前の PGC

- ・ベーシックなメカニクスの徹底
- ・チーム情報の共有
- ・処置ミスを防ぎましょう

▶ゲーム後のミーティング

TO 管理が大変だった。SCとタイマー。そしてスコア。

常日頃から、SC 確認とタイマーチェックを強化していく。チームファールの確認を強化していく。(ツームアとネクストボーナス)

判定については、同じような出来事を同じようにコールしていくことで GC として安心できた。TO 管理がむずかしい中で、判定をきちんとしていくことで、しっかりゲームを進めることができた。課題としては、ゲームデリバリー。千葉のチームファールがペナルティシュチュエーション。千葉がオフェンス。東京がスティールを試みて、パスのボールに触れる。この時、まだボールコントロールは変わっていない。東京と千葉の選手でボールを取りに行くところで、千葉にファール。最初はスローインとして、処理しようとプレゼン。千葉と東京からチームファールの問い合わせがあり、一時中断。その間クルーで協議。FT 2 ショットに訂正。ボーナス 2 ショットを東京に与えてしまう。ここぞというときの自身の判定とそこに至るまでの気づきに自信を持っているからこそプレゼンまでしっかりできている。だからこそ、協議の際には、意見をきちんと伝えて進めること。

期 日	8月17日(日) 国スポ本戦 少年男子代表決定戦
対戦カード	群馬 vs 神奈川
ク ル ー	CC: 島袋 竹志 氏(東京) U1: 箱石 拓也(報告者) U2: 設楽 大成 氏(群馬)
ミーティング内容	審判主任: 山崎 敬次郎 氏(千葉)

▶ゲーム前の PGC

- ・ベーシックなメカニクスの徹底 L T C の確認
- ・チームの特徴を確認
- ・昨日の反省や出来事共有
- ・TO 管理の徹底

▶ゲーム後のミーティング

ストレスなくゲームを見ることができた。

気になるところで、きちんと笛が入っていたので、良かった。

それぞれのプライマリーで邪魔をせずに、判定されていたのが、この結果に繋がった。

選手がゲームに集中して最後まで試合に取り組めていたので、大変良かった。

期 日	8月16日(土) 成年男子1回戦
対戦カード	栃木県 vs 東京都
ク ル -	CC:小澤朋克氏(群馬) U1:堀口拳(報告者) U2:猪俣祐介氏(千葉)
ミーティング内容	審判主任:秋葉智氏(茨城)
<p>▶ゲーム前のPGC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メカニクスの確認 ・チーム情報共有 ・クロックの確認について <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <p>栃木は白鵬大学、東京は横河電機のメンバーから構成されており、異種格闘技戦となる試合であった。大学生もアグレッシブにDFにコンスタントに笛を入れてはいたが、終始ファウルがやむことはなく、よりメッセージを含めたコールになるとよかった。東京もリアクションを大きく取ることが散見され、ファウルは吹きつつもそこに対するアプローチがあるべきであった。個人の課題としては、イリーガルな手の使い方、意図的な止め方に対し、シンプルにコールしていくことが足りなかった。長く見るべき体のコンタクトと違って、タイムリーに笛を鳴らすイミディエイトな笛を有効に活用したい。</p>	
期 日	8月16日(土) 少年男子2回戦
対戦カード	群馬県 vs 茨城県
ク ル -	CC:赤星隆幸氏(東京) U1:堀口拳(報告者) U2:都筑陽介氏(群馬)
ミーティング内容	審判主任:小澤朋克氏(千葉)
<p>▶ゲーム前のPGC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メカニクスの確認(エッジの見方、ヘルプDF、ブリッツの対応) ・チーム情報共有 <p>・「ビビらず、驕らず、積極的に」:選手やベンチから何か言われてしまうか、とビビらない。うまく吹けているな、というときこそ慎重に。</p> <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <p>高さで勝る茨城に対して、群馬がインサイドをどのように守っていくかがキーになる試合であった。前半は群馬県の積極的なDF、高確率の3Pにより、拮抗した試合展開となったが、徐々に高さの差から茨城の優勢となっていった。何とかインサイドを守ろうと必死になるタイミングで、イリーガルな守り方が増え、茨城インサイドプレーヤーもインテンシティーが高まり、お互いが倒れるケースや、やり返しにつながりかねないケースがいくつか見られた。守り方がイリーガルになっていることや、それに対してストレスをためていることにもっと早く気づき、レフェリーが介入していくことが必要であった。個人の課題としては、どちらかにつけなければいけない場面の「決断力」、「気づき」の量を増やすこと。そのためにメカニクスを大切に、自分のプライマリーのプレイをしっかりと把握することが大切。</p>	
期 日	8月17日(日) 成年男子準決勝
対戦カード	神奈川県 vs 東京都
ク ル -	CC:増淵泰久氏(栃木) U1:阿久沢尚夫氏(群馬) U2:堀口拳(報告者)
ミーティング内容	審判主任:茂泉圭治氏(神奈川)
<p>▶ゲーム前のPGC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メカニクスの確認(エッジ、Cサイドトラップ、2 or 3) ・アクションとリアクションの見極め ・チーム情報共有 <p>・コミュニケーションの取り方</p> <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <p>終始拮抗した試合展開で緊張感あふれる試合であった。神奈川が同点シュートを決めOTとなったが最後は東京が勝利し決勝進出を決めた。反省としては、引き出しを増やすということ。事後的に手が顔に当たってしまった時の対応や、コートやボールの滑りを選択手に指摘されたときに止めるタイミング、リバウンドのファウルとそれに伴うフェイクのつけ方など、イレギュラーな場面の対応を決めきれずに、任せてしまうことが多かった。また、シンプルにコールを積み重ねなければいけないDFの仕方を長く見すぎてしまい、笛のタイミングを逸してしまうこともいくつかあった。これについては大人の試合の時に自分が陥りやすい状況なので、早急に改善する必要がある。多くの試合を見て、経験して、そういった状況を理解できるようにしたい。ゲームの状況や流れに応じて、グレーな現象を白黒決断できる強さも必要だと感じた。</p>	

期 日	8月16日（土） 成年女子1回戦
対戦カード	栃木県（白鷗大学）vs 群馬県（混合チーム）
ク ル ー	CC：中嶽 希美子氏（指名） U1：浅見 好美氏（神奈川） U2：土屋 友由（報告者）
ミーティング内容	審判主任：島袋 竹志氏（指名）
<p>▶ゲーム前の PGC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なメカニクスやプレイコーリング、最近のそれぞれの課題などを確認。 ・審判の役割はファウルを吹くことではなく、プレーを長く見ること。その上で S 級・A 級に求められていることは如何に不要な笛を無くしていくかということを確認しました。 <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クルーで協力して、相手のプライマリーを犯すことなくゲームを進められていて良かったと思う。 ・特に CC がゲーム全体を通して、前に前にゲームを進めようとする姿勢は交代やタイムアウトが多い中でもゲームが間延びすることなく、円滑にゲームが進んだ大きな要素になったと思うので、今後も継続してほしい。 ・個人の振り返りとしては、オフェンスファウルなど、グッドコールもあるが、見せ方としてまだまだプレゼンが弱い時があるので、1つ1つの判定にしっかりとプレゼンを意識して説得力をさらに上げてもらうようにしてもらいたい。またメカニクスの部分でロートレイルを意識している中で、プレイヤーと近づきすぎていることが多々あった。癖になっていると思うので、映像で見返してもらう際に確認して、改善してほしいとアドバイスをいただきました。 	
期 日	8月17日（日） 少年男子決勝
対戦カード	茨城県（混合チーム）vs 東京都（混合チーム）
ク ル ー	CC：茂泉 圭治氏（指名） U1：上阪 紘也氏（東京） U2：土屋 友由（報告者）
ミーティング内容	審判主任：増淵 泰久氏（栃木）
<p>▶ゲーム前の PGC</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のプライマリーを大事に、相手のプライマリーを尊重してベーシックなメカニクスとプレイコーリングを意識していくことを確認。 ・両チームのキーマンとなりうるプレイヤーの情報を共有した。また両チーム各学校では力のある HC が揃っているので、必要なコミュニケーションを心がけながらスムーズなゲーム運営に繋げていくことを確認。 <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム前の PGC 通りお互いのプライマリーにはセカンダリーで飛び込むことなくゲームを運営していったことは良かった。一方で、自身のプライマリーで起きているイリーガルなコンタクトをオンザコートでちゃんと判定し欲しいプレーがいくつかあったとミーティングでお話をいただきました。特にイリーガルな手の使い方や、ボディコンタクトをよくするプレイヤーにはメッセージとしてのコールが必要であるといただきました。 ・ベンチからのアピールについて、アシスタントコーチが大きなリアクションするものをコミュニケーションで解決しようとしていたのは見てとれたが、逆にそれはダメというラインを持って、そのラインを超えたら簡単に TF とする強さが出てきてほしいともお話をいただきました。TF を吹いたから OK、吹かなかったからダメということではないが、見ているお客さん含め審判がコントロールしているという絵を作ることがゲームを正しく前に進めていく上で必要と改めて感じました。 	

担当試合①	
期 日	8月16日(土) 少年男子1回戦
対戦カード	群馬県 vs 栃木県
ク ル ー	CC: 後藤貴哉 氏(東京) U1: 大和田雅人 氏(茨城) U2: 村上翔 (報告者)
ミーティング内容	審判主任: 内野翔太 氏(群馬)
<p>クルーで基本的なメカニクスを確認して、試合に臨んだ。</p> <p>試合中にクルーで情報共有しながら進めることができ、トラベリングなどの判定につながった。</p> <p>試合序盤に得点表示の訂正の場面があり、その際に声を使うことで会場全体に伝えて対応することが必要であった。気づき、訂正することをどのように、見ている人へ伝えていくか工夫が必要であった。</p> <p>また、他にもゲームコントロールやプレゼンテーションにおいて、客観視することが足りていないと感じた。もっと多くのことに気づき、どのように周囲から見えているか、どのように試合に関わっていくかをより考えなくてはならないと実感した。</p>	
担当試合②	
期 日	8月16日(土) 成年男子1回戦
対戦カード	群馬県 vs 千葉県
ク ル ー	CC: 増淵泰久 氏(栃木) U1: 本間竜也 氏(神奈川) U2: 村上翔 (報告者)
ミーティング内容	審判主任: 佐田幸一 氏(山梨)
<p>クルーで個々の課題などを共有して、試合に臨んだ。</p> <p>ゲームコントロールやベンチコントロールをととても意識した試合となった。</p> <p>徐々に点差が開いていく展開の中で、国体のチームとして県を代表している選手たちに対してどのように関わり、判定を積み重ねていくか難しく感じた場面があった。コーチとの会話においても、それを見ている周囲の人にどのように見えるかという意識が足りていないことを感じた。</p> <p>1 試合をどのように進めていくかということについて、改めて深く考える必要性を感じた。</p>	
全体の感想	
<p>まず初めに群馬県バスケットボール協会の皆様には、大会前・期間中、細部にわたりお気遣いをいただき、オンザコートに集中して試合に臨むことができました。本当にありがとうございました。また指名審判員の皆様には、ご自身の経験から次のライセンスアップに繋げる取り組み方法などをいくつもご紹介いただき、また大会期間中もオフコート、オンザコートに関わらずコミュニケーションをとる中で、審判に対する考え方や見せ方、見られ方など改めて多くの知識を深められる充実した2日間を過ごすことができました。</p> <p>またこの国スポ関東ブロック予選は他の関東大会とは異なり、派遣対象がA級以上ということで、各都県の上級審判員が数多く集まる機会に派遣いただけたことは、同じライセンスを持つ苦労や今後に向けて、改めて頑張ろうという思いが強くなり、試合以外でも収穫が多い大会となりました。本当にありがとうございました。</p> <p>最後になりますが、改めて今大会でお世話になりました指名審判員の皆様、各都県派遣審判員の皆様、開催県の群馬県バスケットボール協会の審判長小澤様、審判員・TO クルー・大会関係者の皆様には心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。今回の経験を県内に還元し、チーム埼玉として更なる成長に繋がられるようにいたします。今後ともご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。</p>	